

「令和2年度環境教育等促進法基本方針の実施状況調査（アンケート調査）」結果について

環境省が2021年3月に「令和2年度環境教育等促進法基本方針※の実施状況調査（アンケート調査）」結果について公表しました。アンケートは「一般国民向け」と「教職員等教育関係者向け」の2種類に分けて実施され、本稿では「一般国民向け」アンケートのうち、「環境教育を受けた経験について」に関する結果についてご紹介します。

※環境教育等促進法基本方針…2018年6月閣議決定された。「各種施策の改善に向けて、国民各界各層の意見を聴きながら検討」を行うこととされており、その検討に当たっては、国民の環境保全に対する意識、環境教育の影響等に関して、現状や基本方針策定後の変化、そして新たな課題等を把握することが必要とされている。

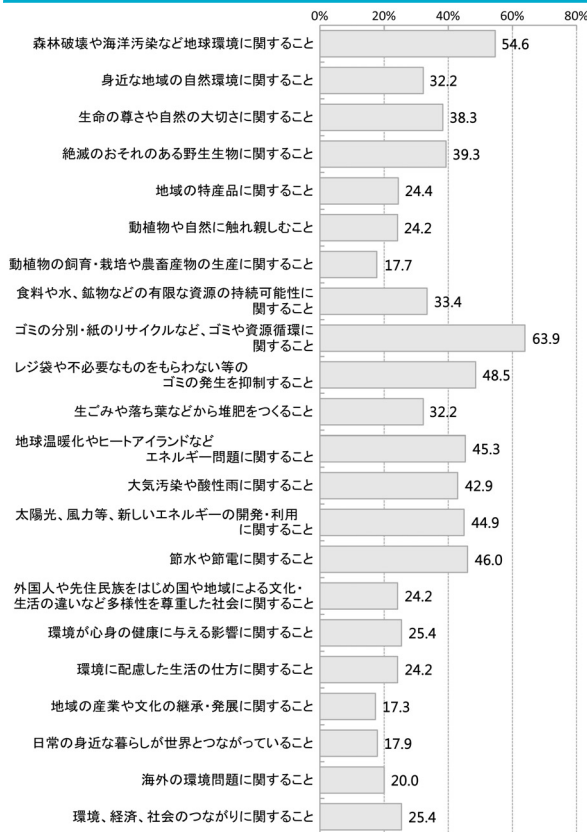
1. 調査概要

調査期間：2021年3月3日～3月5日
 調査方法：有識者の助言を反映した調査票によるウェブアンケート
 調査対象：一般国民向け（2,075人）と教職員等教育関係者向け（1,000人）

2. 調査結果

（1）環境教育に関するこれまでの学びや行動について
 学校の授業だけでなくすべての機会において、これまでに環境や社会に関してどのようなことを学ん

図表1：これまでにどのようなことを学んだり、行ったりしましたか。（複数回答）



出典：「令和2年度環境教育等促進法基本方針の実施状況調査（アンケート調査）」（環境省）（以下同じ）

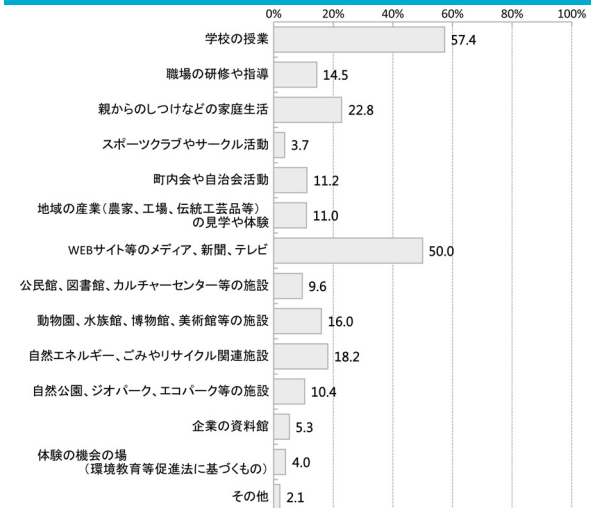
だり行ったりしたか尋ねたところ、ほとんどの項目が20%以上であった。その中でも「ゴミや資源に関すること」が63.9%、「森林破壊や海洋汚染など地球環境に関すること」が54.6%と半数以上が選択しており高い。一方で20%を下回っているのは「動植物の飼育・栽培や農畜産物の生産」、「地域の産業や文化の継承・発展」、「日常の身近な暮らしと世界とのつながり」であった（図表1）。

（2）学びの場について

環境や社会に関することを学んだ場を尋ねたところ「学校の授業」が57.4%、次いで「メディア・新聞・テレビ」が50.0%と半数以上が選択しており高い。また、それ以外では「家庭生活」が22.8%と他の選択肢に比較して高かった。

環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」については4%（83名）が選択した（図表2）。

図表2：環境や社会に関することを学んだ場として、どのようなところがありましたか。（複数回答）



(3) 学びによる行動変化と意識変化について

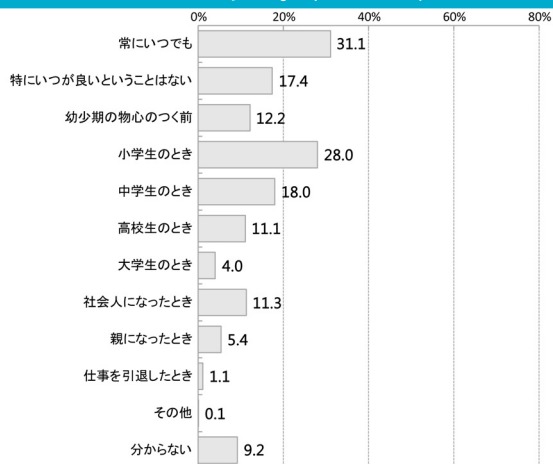
これまでの学びによって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思うか尋ねたところ、「意識の変化があった」及び「意識・行動に変化があった」が59.7%であり、半数以上が学びにより何らかの変化があったと答えた（図表不掲載）。

(4) 学びの時期とその理由について

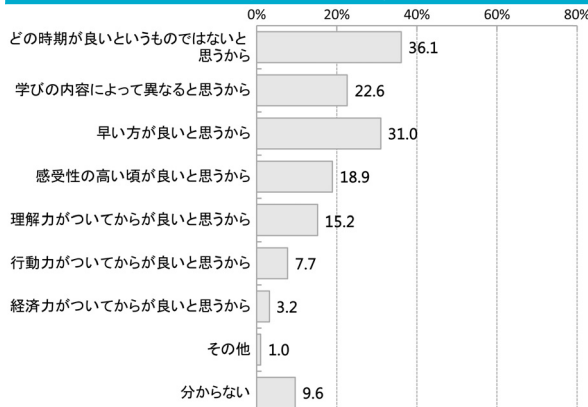
あなたの経験を踏まえて、いつ環境に関する学びの機会があればよいか尋ねたところ「常にいつでも」が31.1%と最も高く、次いで「小学生のとき」が28.0%であった（図表3）。

次いでその理由について尋ねたところ「どの時期が良いというものではない」が36.1%と最も高く、次いで、「早い方が良い」が31.0%であった（図表4）。

図表3：いつ環境に関する学びの機会があればよいと思いますか。(3つまで)



図表4：それは何故ですか。(2つまで)



(5) 今後の学びへの意欲について

環境や社会に関することについて、今後も学び

続けたいと思うか尋ねたところ、「とても思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせて71.6%であり、7割以上が継続して学ぶことに前向きであった。一方で「どちらかといえばそう思わない」、「全く思わない」を選択した5.6%（117名）について、その理由を尋ねると、「興味がない」が37.6%と最も高く、次いで「収入につながらない」が29.1%であった（図表不掲載）。

(6) 情報共有と行動意欲について

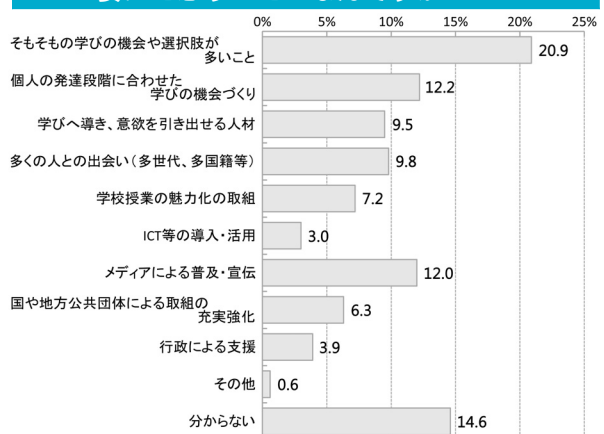
環境や社会に関することについて、自分が誰かに教えたり、取り組んだりしたいと思うか尋ねたところ、自らが誰かに対して「教えた」、「行動で示したい」、「発信したい」を選択した人は合わせて47.5%とほぼ半数を占めていた。

反対に「難しい」、「行いたくない」を選択した人は合わせて40.0%であった（図表不掲載）。

(7) 学びの機会を充実させるために必要なもの

今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことを尋ねたところ、「学びの機会や選択肢が多いこと」が20.9%と最も高く、「ICT等の導入・活用」や「行政による支援」は4%程度と低かった（図表5）。

図表5：今後、環境や社会に関する学びの機会を充実させるための取組として、特に必要だと思うことはなんですか



今後は学校教育だけではなく、地域の取組みに参加するなど「体験の機会の場」を増やすことにより、環境教育が身近になり、更に学びが継続していくことが期待される。（村井 渚）